

果物をこれからへ繋げよう

東京都町田市立成瀬中央小学校 六年 片桐 稜也

僕の祖父母の家は静岡県にある。静岡県の代表的な果物はみかんだ。その中でも温州みかんは、約六万九千四百トンが静岡県で収穫された。この収穫量は、全国で一位である。

(注・2015年普通温州みかん)

僕が小さいころ、祖父母の家の畑には、何本かのみかんの木があった。祖父母が手間暇かけて作ったみかんは、とてもあまみがあり、おいしかったことを今でも覚えている。

だが、今の祖父母の家には畑がない。当然みかんの木もなくなっている。そして、昔、畑があったところには住宅が並んでいる。祖父母の家の畑は借りていたものだったので、その畑が宅地開発されるのは祖父母は分かっていた。だが、僕は畑が住宅になってしまい、おいしいみかんを食べることができなくなってしまったことがとても悲しい。

だが、このような果物農地の減少は、宅地化だけの問題ではないという。果物農地の減少には農家の人口の減少も関係しているという。この主な原因は高齢化だそうで、静岡県のみかんだけではなく、和歌山県や愛媛県といったみかんの名産地も同じような現象が発生しているというのだ。

今回、日本の果物について調べて日本の果物には多くの危機がせまっていることを知った。祖父母の家のような宅地化だけでなく、農家の人口の減少などといったさまざまな原因が日本の果物に危険をおよぼしているのだ。このままでは、日本の果物を未来に繋げることができなくなってしまうかもしれない。

日本の果物は農家の人が愛情をこめて作り上げた大切なものだ。だが、このように日本の果物を未来に繋げることが出来なくなってしまうかもしれない、というのを僕が今まで知らなかったように日本人はあまり知らないのではないか。果物は、この問題を解決することができないからこそ、日本人は果物に対する関心をもっともつ必要があると思う。